

議員視察研修報告

平成27年11月17日～20日

台湾・高雄市視察

(熊本～台湾・高雄市の直行便を利用)

【視察の目的】

① 統合中の修学旅行地として台湾の適性調査

② 将来を見据えた交流のきっかけ作り

昨年から議会で「統合中学校の修学旅行を台湾に」という提案がある議員からなされていた経緯があり、南阿蘇村となつて初めての海外視察研修となった。今回は台湾公演を控えた長野岩戸神楽のメンバーも同行された。

台湾では、まず修学旅行で訪れるであろう観光地や歴史施設を訪問した。まず市内を代表する観光地である蓮池潭（れんちたん）を見学。その後、「高雄市立歴史博物館」を視察した。この建物は、日本統治時代に建設され、戦後も高雄市役所庁舎として利用されていた。

台湾では、日本統治時代に作られたインフラ設備が未だに活用されている。こうした歴史の一面も子供た

ちに伝え、学んで欲しいと感じた。



高雄市長官邸

「美濃中学校」を視察

修学旅行の受け入れ中学校の視察では、生徒数も500人余りと統合中学校との規模も同等であった点で、高雄市・美濃（みのう）区内にある「美濃中学校」を訪問した。生徒達から歌や踊り、楽器演奏での大歓迎を受け感激した。特に驚いたのは、

高雄市議會を表敬訪問

次に高雄市議會を表敬訪問した。

議會審議中にもかかわらず、議事を止めて、我々を歓迎して頂いた。

高雄市議會の平均年齢は49歳で定数66人の内25人が女性議員だ。更に各選挙区に少数民族議員枠が設けられていた。こうした多種多様な民意を吸い上げる仕組みは、日本の地方議會も見習うべきだと感じた。



高雄市議會 議場

統合中学校の修学旅行は越えねばならないハードルがあるものの、実現可能だと分かった。今回の視察では、今後の村づくりに活かせるヒントやご縁を得ることができたことも大きな収穫だった。

早速、自治体同士の姉妹提携も議會から提案しながら、村と台湾の更なる交流を深めていきたい。



台湾「美濃中学校」の先生方

学生達の英語力の高さ。学生2人が北京語と英語で交互に学校紹介やスピーチをしてくれた。村の子供達がこれを目の当たりにしたら、話せる英語力を身に付けたいと思うはずだ。環境が違う同世代の交流が、必ず南阿蘇村の次世代を担う人材を育てることに有益だと実感した。台湾は日本と同じで小中高が6・3・3制なので、中学生同士の交流もスムーズにできると感じた。

この議員団に藤岡教育長や教育委員会事務局長も同行し、学校関係者と具体的かつ有意義な意見交換ができた。